

枠を超える、未来を創る

「課題先進国」とも呼ばれる日本は、世界に先んじて極めて複雑で多様な社会の課題に挑んでいくこととなります。

行政だけが社会課題を解決する主体となる時代は終わり、企業・行政・NPOがパートナーとなり、領域の枠を超えて課題の解決に取り組むことが不可欠となってきています。

そんな日本社会がいま必要とするのは、困難な社会課題に果敢に挑む情熱とスキルを持ったリーダーではないでしょうか。

私たちNPO法人クロスフィールズは、セクター、国境、価値観、そして既成概念といったあらゆる枠を超えて社会課題に挑む原体験を提供することで、組織の未来と社会の未来を切り拓くことのできる未来のリーダーたちを創っていきます。

数々の課題に立ち向かう運命にある日本が、いつの日か「課題解決先進国」と呼ばれるような未来を皆まと一緒に目指していきます。

VISION

すべての人が、働くことを通じて想い・情熱を実現することのできる世界

企業・行政・NPOが領域の枠を超えて社会の課題を解決することのできる世界

MISSION

すべての人にNPO・企業・行政という領域の枠を超えて働く機会を提供すること

組織概要

法人名	特定非営利活動法人クロスフィールズ
設立日	2011年6月17日申請済
所在地	〒141-0031 東京都品川区西五反田3-8-3 町原ビル4F
役員	代表理事 小沼 大地 理事 松島 由佳 理事 中山 慎太郎 監事 川合 弘毅（公認会計士）
問合せ	info@crossfields.jp

アドバイザリー・ボード

鵜尾 雅隆（日本ファンドレイジング協会 常務理事）
金田 修（游仁堂 代表取締役、マッキンゼー・アンド・カンパニー 元役員）
小暮 真久（NPO法人 TABLE FOR TWO International 理事・代表）
船橋 力（株式会社 ウィル・シード 代表取締役）
Erin Barnhart (Building Bridges Coalition マネージング・ディレクター)

活動に参加するには

イベントへの参加や月500円からの個人賛助会員、月10,000円からの法人賛助会員など、様々な参加方法がございます。

<http://crossfields.jp>



最新情報は
こちらから ➤➤➤



CROSS FIELDS

枠を超える、未来を創る

「留職」プログラムとは

「留職」とは、新興国での社会セクターで本業のスキルを活かして

社会課題の解決に向けた実践業務を行うプログラムです。

企業や行政の皆様に新しいグローバル人材の育成方法をご提供します。



企業/行政

企業/行政の方々に対して

▶ 導入効果

1. グローバルな環境でリーダーとなれる人材の育成
2. 新興国の市場を開拓する上での土台の構築
3. 働く場としての企業価値の向上

▶ クロスフィールズの提供価値

- 最適な「留職」先の発掘と業務内容の設計
- 「留職」者の成長を加速するプログラムの提供
(国内での事前/事後研修、現地でのコーチング、など)
- ロジスティクス/リスク管理面でのサポート

▶ 「留職」者の声

戦略コンサルティング会社勤務
石川彩子さん



「留職」プログラムは、困難が大きい分、それを乗り越えた時の成長は想像以上でした。いかにカンボジア人経営層を巻き込んで組織改革を進めていくのか。当初は彼らと日本での仕事の感覚で接してしまい全く上手くいかなかったですが、試行錯誤の末に「目標・戦略を共に考える仲間」になっていったことには、心から感謝しました。



▶ プログラム概要

現地での1-12ヶ月間の実践業務を軸としたプログラムです。
「留職」者は新興国のNPO・行政機関・中小企業などに派遣され、
配属された組織の職員として業務にあたります。

業務内容(例)

- カンボジアのNGOが運営する手芸品工房の生産管理の仕組み構築
- ベトナムの浄水設備開発企業での商品の機能改善とスタッフ育成
- インドにおける産業発展途上地域の商工会議所の戦略立案
- バングラデシュの貧困地域の起業家が立ち上げた小規模事業の収益拡大



新興国 社会セクター (NPOなど)

社会セクターの方々に対して

▶ 導入効果

1. 即戦力で活躍できる人材の獲得
2. 留職者を介した企業や行政との繋がり

▶ クロスフィールズの提供価値

- 組織の飛躍に繋がり、「留職」者のスキルを最大限に引き出す業務の切り出しと設計
- 「留職」期間中の業務内容の改善サポート

▶ 受け入れ団体の声

カンボジア国際協力NGO かものはしプロジェクト
共同代表 青木健太さん



プロフェッショナルな人材と共に事業を加速できたことに感謝しています。また、クロスフィールズさんによる適切な業務設計により、当初想定した以上の成果を出すことができました。「留職」プログラムは、短期的な事業の加速にとどまらず、受け入れ団体の組織力を強化し、事業に共感する仲間を増やしていく素晴らしい仕組みだと感じます。